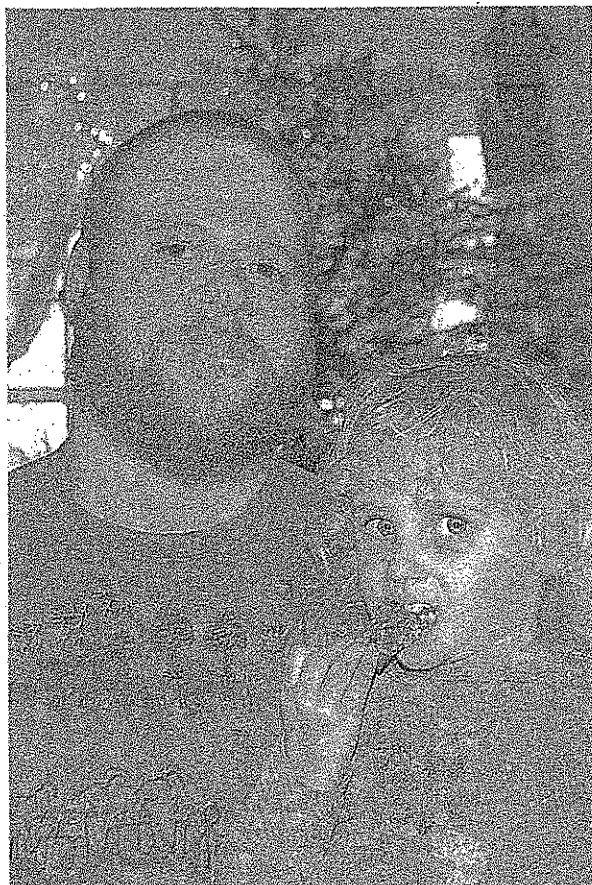


# 私は英雄じゃない



娘のアイラちゃんと

## イラク帰還米兵 ウィリアム・ホプキンスさん

## 戦争する国のリアル

3月に施行される戦争法。自衛隊が史上初めて、外国人を殺し、戦死者を出す現実的危険が強まっています。「戦争する国」になるとは、どついついことか。すでに海外で戦争を繰り返している米国などの実態から考えるシリーズ「戦争する国のリアル」。まず米国を訪ね、イラク帰還兵の話をお聞きました。

米ニューハンプシャー州ベルモントで坂口明記者(写真も)

## 最悪の激戦地 語れなかった罪



ファルージャで市中を巡回する米海兵隊員  
=2008年1月(米軍ウェブサイトから)

昨年11月11日の「退役軍人の日」。米北東部ニューハンプシャー州に住むウィリアム・ホプキンスさん(35)は、地元小学校から、「隠れた英雄

雄」としてメッセージを依頼されました。退役軍人の日は、第1次世界大戦の休戦協定が結ばれた日を記念し、退役軍人をたたえるため設けられた祝日です。

ホプキンスさんは2001年5月から6年間、同州の州兵でした。04年3月から1年間イラクに派兵され、軍功を表彰されました。

メッセージとしてホプキンスさんの口から出たのは「私は英雄ではない。殺人者だ」という重い言葉でした。

01年当時、大学で人類学を勉強していたホプキンスさん。「学費を援助してくれる」のが主な動機で州兵に志願しました。ところが9・11同時テロで運命は一変。イラク戦争最悪の激戦地ファルージャに派遣されました。そこで見たものは――

7面につづく

# 派遣拒否すれば死刑も

1面のつづき

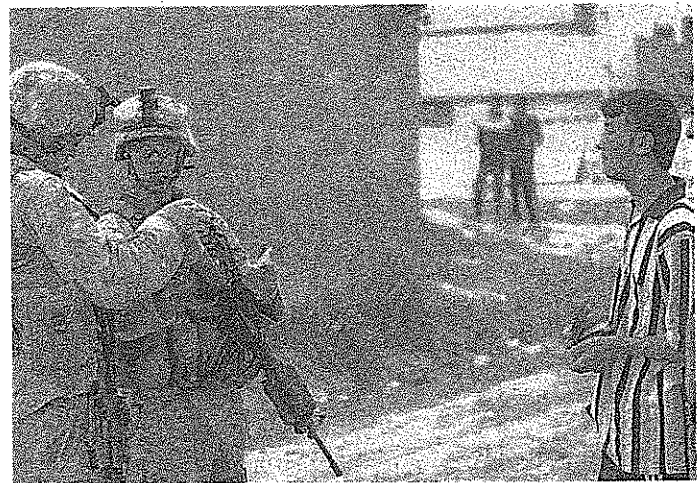
州兵とは、各州が所管し、連邦軍を補充する軍隊です。陸軍と同じ訓練を17週受けた後、毎月1週間、地元

の兵舎に詰めます。これまでは「アリストーム（氷嵐）や洪水などが起これば動員されるだけ」（ホフキンス）でした。

ところが入隊4カ月後、9・11同時テロが起きました。「対テロ戦争」が始まり、他國での戦争に派兵されたことのない州兵まで駆り出されることになりました。2003年3月にはイラク戦争が勃発。ホフキンスさんは180人の中隊は3カ月の訓練後、翌年3月イラクに送られました。



イラク帰還米兵を語る



ファルージャで地元住民の身分証明バッジを確認する米海兵隊員＝2006年5月（米軍ウェブサイトから）

イラク侵攻は9・11テロとは無関係であり、私はイラク戦争に反対でした。派遣命令拒否も考えました。でも、そうすれば1年半投獄されて経歴に傷がつき、「臆病者」のレッテルを張られ、残りの人生をすごすことになる。最高刑は死刑です。いったん入隊した以上、そこまでする勇気は、ありませんでした。

派遣されたのは首都バグダッドの西70キロのファルージャ。人口30万人の工業都市はイラク戦争で最悪の激戦地でした。米軍などのイラク占領開始後もファルージャは武装勢力の拠点となり、04年4月と11・12月には米海兵隊主導の大規模な鎮圧作戦が展開されました。ホフキンスさんは、秋の作戦「新たな夜明け」（原名・亡霊の怒り）に投入されました。

「作戦の目的は、ファルージャを封鎖し、敵を兵糧攻めにして粉砕することでした」

ベトナム戦争後で大規模の市街戦といわれる同作戦。精密爆弾

ファルージャ東方のアブグレイブ刑務所に駐屯していたホフキンスさんの部隊は、第2海兵師団の下、ファルージャ市の東端で非常態を張る任務が与えられます。

「町から出て行く者は捕まえるか殺すかです。戦場と化した市街地から逃げ出そうとする手もらを阻止し、町に追い返すのは本当に怖かった」

「町から出て行く者は捕まえるか殺すかです。戦場と化した市街地から逃げ出そうとする手もらを阻止し、町に追い返すのは本当に怖かった」

### イラク戦争年表

2001年	9月11日 対米同時テロ
2003年	3月20日 イラク戦争開始 ブッシュ米大統領が大規模戦闘終結を宣言
	5月1日 米陸軍主導のファルージャ作戦「勇敢なサソリ」
	6月15～16日 フェイン大統領拘束
	12月13日 米陸軍主導のファルージャ作戦「市場掃討」
2004年	1月13日 ファルージャで民間軍事企業の武装社員4人殺害
	3月29日 米海兵隊主導のファルージャ作戦「油断なき決意」
	4月3～30日 アブグレイブ刑務所での米兵によるイラク人虐待が判明
	4月28日 米大統領選でブッシュ再選
	11月2日 米海兵隊主導のファルージャ作戦「新たな夜明け」
	11月7日 米海兵隊主導のファルージャ作戦「新たな夜明け」
	～12月23日

## 部隊のいる場所が戦闘現場になる 「自衛隊は安全」なんてありえない

やミサイルを含め9万発以上の砲弾が発射され、民間人6000人以上、海兵隊70人が死亡しました。米軍は、テロ組織アルカイダの首謀者サルカウィが潜伏していることをファルージャ攻撃正当化の理由に挙げました。しかしサルカウィは攻撃を生き延び、この戦塵（せんじゆん）の中から今日のIS（イスラム国）を結成します。

「その後、私たちはハイウェイ号線を3台のハンビーで巡回し

ていました。私は2台目でした。そこにイラク人の女性が突然出てきたのです」

「私たちが彼女を病院に搬送しましたが、その後どうなったかは知りません」

「部隊で戦争の是非を言うのはタブーでした。他の隊員がどう考えていたのかも分かりません。退役後に戦争への疑問を語り始めたときも、周囲の反応はよくなく、孤立感を抱きました。この女性のことも今は鮮明に思い出していますが、ずっと封印していました。口にするようになったのは事件から約10年たってからです」

## 9条は人類の理想 米憲法にも入れたい

ホフキンスさんは今、「ニューハンフシヤ」平和行動」という平和団体の事務局長をしています。

「自衛隊は後方支援」

「これら企業の人々の多くは武装していませんが、それでも多数が殺されています」

「日本の憲法9条のことは勉強しました。戦争放棄のその理想は全人類が追求すべきで、米國も憲法に取り入れるべきです。戦争は常に間違っています。特に今は、豊かでありながら戦争を望む人々が増えている。それは大きな間違いです。日本は世界で、戦争放棄の事例となつてほしい」



米海兵隊のハンビー（米軍ウェブサイトから）

「私たちが彼女を病院に搬送しましたが、その後どうなったかは知りません」

「部隊で戦争の是非を言うのはタブーでした。他の隊員がどう考えていたのかも分かりません。退役後に戦争への疑問を語り始めたときも、周囲の反応はよくなく、孤立感を抱きました。この女性のことも今は鮮明に思い出していますが、ずっと封印していました。口にするようになったのは事件から約10年たってからです」

「罪の意識を持ちました」